

平成27年度  
大原孫三郎・總一郎研究会  
プログラム

と き：平成27年11月28日（土）

13：00～17：30

ところ：倉敷公民館 大ホール

公益財団法人 有隣会

# も く じ

ごあいさつ .....	1
スケジュール .....	2
研究発表（一般の部） .....	3
研究発表（学術研究の部） .....	9
公益財団法人 有隣会所蔵資料紹介 .....	15
公益財団法人 有隣会のご案内 .....	17

主 催／公益財団法人 有隣会

後 援／岡山県、岡山県教育委員会、倉敷市、倉敷市教育委員会

桜美林学園、岡山大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、  
吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、  
法政大学、早稲田大学

公益財団法人 倉敷市文化振興財団、一般社団法人 岡山経済同友会、  
岡山県商工会議所連合会、倉敷商工会議所

OHK岡山放送、山陽新聞社、RSK山陽放送、TSCテレビせとうち、  
FMくらしき、倉敷ケーブルテレビ

協 賛／倉敷紡績 株式会社、株式会社 クラレ、株式会社 中国銀行、

公益財団法人 大原美術館、公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

協 力／法政大学 大原社会問題研究所、公益財団法人 労働科学研究所、

岡山大学 資源植物科学研究所、社会福祉法人 石井記念愛染園、  
社会福祉法人 石井記念友愛社、社会福祉法人 若竹の園

# ご あ い さ つ

## □安井昭夫

(公益財団法人 有隣会 代表理事)

2015年7月に亡くなった 哲学者 鶴見俊輔 は哲学について一つの見識を持っていた。

彼は哲学とは「全人的(全人格の総合的な)行為の表現」と考え、彼がアメリカで哲学を専攻しようとした時、当時ハーバード大の講師だった都留重人に哲学は学とか論文ではなく随想とか感想と呼ぶべきだとして反対された。では全人的行為の表現としての哲学はどのように表現すればよいのか。鶴見がたどり着いたのは「伝記」という表現形式だった。

私の考えも鶴見と同じで、この研究会の報告一つ一つが孫三郎・總一郎の伝記の一齣となり、寄せ集まって全人的行為の表現即ち大原の哲学となると確信しています。

今回は第4回になり、これからも公民館に固定できそうです。皆様のさらなるご協力をお願いいたします。

## □大原謙一郎

(公益財団法人 大原美術館 理事長・公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 理事長)

第四回目を迎える今年の「大原孫三郎・總一郎研究会」は、日本にも世界にも課題が山積している騒がしい世相の中での開催となりました。

今、世界各地で、経済も、政治も、外交も、迷走を始めているように感じられます。人道的問題も各地で噴出しています。人類がより良い方向に向かっているのか、より賢明になっているのか、多くのかたが深い危惧の念を表明しておられます。

その中で、一度立ち止まって、大原孫三郎・總一郎の思想と行動に思いを馳せることには、格別の意味があるような気がします。彼らが多くの分野で成し遂げようとし、成し遂げ、あるいは成し遂げられなかったことから、私たちは、今の世を読み解く様々なことを感じ取ることができるような気がします。

今年も、多様な角度から二人の実像に迫ろうとする多くの研究成果が発表される段取りになっています。また、様々な思いで孫三郎・總一郎と接し、あるいは両名について学び、考えておられる多くの方々にご参加いただいています。

この会が、ご参加いただいている皆様にとって意義深いものでありますようお願い申し上げます。

## 2. スケジュール

---

---

13:00	～		開	会	
13:01	～	13:05	ごあいさつ	公益財団法人 有隣会 代表理事 安井昭夫	
13:05	～	13:09	ごあいさつ	公益財団法人 大原美術館 理事長・公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 理事長 大原謙一郎	
13:10	～	13:15	概要説明	司会：公益財団法人 有隣会 代表理事 安井昭夫	
13:15	～	13:40	一般の部①	山根樹生 氏	
13:40	～	14:05	一般の部②	黒川康德 氏	
14:05	～	14:30	一般の部③	山下亨 氏	
14:30	～	14:55	一般の部④	三村聡 氏	
14:55	～	15:20	一般の部⑤	辻野純徳 氏	
15:20	～	15:40		休	憩
15:40	～	15:45	概要説明	司会：倉敷芸術科学大学 教授 時任英人 氏	
15:45	～	16:15	学術研究の部①	後藤正志 氏	
16:15	～	16:45	学術研究の部②	橋本美由紀 氏	
16:45	～	17:15	学術研究の部③	菊池義昭 氏	
17:15	～	17:28	講	評	倉敷芸術科学大学 教授 時任英人 氏
17:28	～	17:30	閉会挨拶	公益財団法人 有隣会 副代表理事 大原あかね	

\* 研究会終了後、18:00 より倉敷国際ホテルにおきまして、交流・懇親会を開催します。ご出席のお申込みをされました方はご移動ください。

### 3. 研究発表（一般の部）

司 会：公益財団法人 有隣会 代表理事 安 井 昭 夫

発 表：

1. 山根 樹生 氏（倉敷まちなか居住『くるま座』有隣庵 宿長）  
「尊敬する大原さんから学び、世界に発信する、学びの場有隣庵の想い」
2. 黒川 康德 氏（石門心学研究者）  
「大原孫三郎と山川均の当事者意識の差異について」
3. 山下 亨 氏（くらしき作陽大学事務局 参与）  
「大原家の生き方から国際都市倉敷の発展のヒントを学ぶ」
4. 三村 聡 氏（岡山大学地域総合研究センター 副センター長・岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授）  
「大原社会問題研究所の心」
5. 辻野 純徳 氏（有ユー・アール設計）  
「大原孫三郎・總一郎と民藝運動—武内潔眞日記を中心に—その2」

## 発表1．尊敬する大原さんから学び、世界に発信する、学びの場有鄰庵の想い

倉敷まちなか居住『くるま座』有鄰庵 宿長 山根 樹生

私は4年前の夏、自転車で日本を縦断する旅に出ていた。そしてその道中で倉敷を訪れ、そこで偶然有鄰庵に出会った。倉敷に来るのはそのときが初めてで、倉敷のどこを見て回ればいいのか全く分からなかったのだが、有鄰庵のスタッフの方に丁寧に教えていただき、まず大原美術館に足を運んだ。自転車で長旅で疲れはあったものの、本館や工芸館など全ての作品をじっくり時間をかけて一度に見て回ってしまった。

有鄰庵には1泊だけのつもりが美観地区にそして大原美術館に魅了され、もう1泊そしてもう1泊と合計3泊もすることとなった。スタッフのすすめで、倉敷民藝館や倉紡記念館、倉敷中央病院等を見て回り、そして大原孫三郎さんについての本『わしの眼は十年先が見える』も読ませていただいた。

日本全国を自転車で旅する過程で各地域の魅力に触れてきたが、美観地区には他の地域とは全く異なるほど強く惹かれていた。

美観地区の街並みにはもちろんのこと、倉敷の人びとの教育のためを思って始めた日曜講演や、患者さんだけでなく働く人びとのことまで考えて建てられた倉敷中央病院をはじめとした、事業で生まれた利益を倉敷市民の生活向上に還元した大原孫三郎さんの取り組み、そしてその大原さんの取り組みに感謝し、倉敷市民であることに誇りを持っている地域の人びとの姿に感銘を受けたのである。

そして私は大学卒業後、有鄰庵で働くことを決めた。「経済的な豊かさを越える、心の豊かさを実現する」という有鄰庵のビジョンに惹かれたこと、またこのビジョンを実現するためのヒントが詰まった倉敷で暮らし、倉敷の魅力を世界に発信したいと考えたからである。

私が倉敷で暮らし始めて、1年半ほどが経つが、倉敷のことや大原さんのことを学ぶうちに、倉敷の街並みや、地域の人びとなど随所に大原家の意思が受け継がれていることが感じられる。大原さんのおかげで受け継がれてきた、倉敷の建物文化や精神文化を絶やすことのないよう、世界に発信する仕事をしていきたい。

### 略歴

有鄰庵宿長。大学時代に旅の途中で有鄰庵に宿泊。倉敷と大原さんと有鄰庵のコンセプトに惹かれ、大学卒業後有鄰庵へ。大学では教育学を専攻。

## 発表2. 大原孫三郎と山川均の当事者意識の差異について

石門心学研究者 黒川 康德

——人は思ったことだけを行動する——。これを「行動原理」というが、それは、その人の行動への価値基準でもある。大原孫三郎の偉大な功績も、当人の行動原理に基づいたものであり、その帰結でもある。それはまた原因と結果の関係、つまり因果関係でもある。

社会問題研究所、労働科学研究所、大原奨農会農業研究所、石井記念愛染園、倉敷中央病院など、数からしても規模からしても、その並はずれた社会貢献もまた、その思いから発したものであろう。果たして、そのような精神構造が、どのような体験を通して形成されたものだろうか。誰の影響の下に育まれたものだろうか。

ともすれば、多くの人材に恵まれたその「結果」という観方もあるが、むしろ、孫三郎のその人格をはじめとする「人物」に集ったという「原因」によるものではなからうか。だとすれば、彼に影響を与えた人物を捜し、その人物像を探るのも、孫三郎を知る手がかりにつながることになるのではなからうか。

たしかに、石井十次との出会いやキリスト教の出会いは大きな影響を及ぼしているが、社会主義者・山川均との関係もまた、因となり果となり、かなりの影響を与えたものと思われる。ただ、前者が肯定的・能動的に働いたのに対して、後者が否定的な「反面教師」としての働きによるものである。

孫三郎と山川は同期にあり、竹馬の友として五人組を形成していたほどの関係にあるが、小学校卒業を期してその道を分かつのである。その後においても度重なる出会いや、孫三郎が師と仰ぐ林源十郎から山川の消息はつぶさに入っていたことだろう。なぜなら、山川の長姉は源十郎の下に嫁いでおり、山川の義兄に当たるのである。それにも増して、生涯を通して義兄には経済的な面において迷惑の掛け通しであったのだから。

山川の理想社会を求めての活動には、石井十次やキリスト教の教えにも共通する面があり、孫三郎も共鳴はしていただろうが、あくまでそれは非現実的な「観念論」にすぎず、リアリストの孫三郎とは越えがたい世界観の差異があり、それはまた当事者意識における優劣にもつながる。そして、その成長が当事者能力の一層の発展を促し、孫三郎の行動原理へと導かれたのが、その全てを物語っているのではなからうか。

### 略歴

昭和25年4月26日島根県にて出生。中学卒業後社会人として就業。30代前半期山本七平の著書で石田梅岩・石門心学に出会い、哲学・思想・宗教・心理学から比較文化論等に関心を開く。石門心学研究家、ソングライター。

## 発表3. 大原家の生き方から国際都市倉敷の発展のヒントを学ぶ

くらしき作陽大学事務局 参与 山下 亨

**学びの資源としての大原家** 江戸時代北前船が出入りした玉島。1400年前には第一回遣隋使が阿智の港から大陸に渡り大和の国づくりに貢献した。1300年後に倉敷では海外知識に富んだ大原家三代が企業文化を成熟させた。その倉敷を学ぶことは大原家を学ぶことである。市民一人ひとりの遺伝子にこの大原学がスイッチ ON されれば倉敷は国際都市に脱皮しよう。多くの研究書から、読書家は各々の視点と知覚で大原家の人々の「自利利他」の生き方、アカデミズムとダイナミズムなどを考え読者一人ひとりがその生き方を問い直すことができる。大原イズムを学べば世界の発展に貢献するノウハウを得ることができよう。

**遺伝子・血脈力** 持続している「家」の系譜にある「遺伝子」は家人（子孫）に強く作用する。家は戸主のリーダー力と資質が鍵である。「家制度」の中に入った「他人」（婿養子）の力量によりその家の生業や発展の度合いが変わりひいては町が変わる。富豪大原家は報徳力による血脈選択が優良遺伝子を精鋭化させ、累代のその事蹟は遺産として巨大に堆積している。江戸初期以来の大原家は有史初代から九代に至る企業家であり、とりわけ孝四郎、孫三郎、總一郎の三代の生き方は「知と人間」の形成史である。

**親(先祖)の衣類を着て子が働く** 孝四郎と孫三郎、孫三郎と總一郎という親と子。子が親の思想や生き方を学び視野を変え補い合って新たに大原家の信用と品格を創造する。これは母（妻）の役割が大きく、母が与えた親（先祖）の衣類を子が身に付け親子一体で生きる。儒家・孝四郎の生きざまは孫三郎が学び總一郎に伝わる。理論が実践を促し富が救済の原資となり、運命が使命に変わる。「家」というシステムが人を育てその人格のインパクトが社会を変える。その一衣帯水が大原家に見る。

**大原学による人づくりと都市づくり** 経営者・大原孫三郎は、明治の青少年時代の幾多の在京体験等により現実主義者に育つ。ベースは儒学や報徳思想である。が、石井十次との交友により視野・思想が転換される。体験的人道主義が形成され実践されていく。一方、大原總一郎は大正・昭和を恵まれた環境の中で野鳥観察、読書、音楽、芸術の世界で豊富な知識と見識を身に付ける。訪欧経験の人脈と視野が企業家の活躍の幅を広げる。対中国プラント輸出、行政官（物価庁次長等）・財界活動、東大講師、美術・民芸の支援に加えて文章家などなど。その才能の発露は人間ワザとは思えないほどにバラエティに富む。大原親子は他に類を見ないし到底誰もが真似できない。それゆえ大原学は“世界人間遺産”に値するのではないか。

### 略歴

神戸大学法学部卒。兵庫県庁、自治省・総務省勤務（うち通算10年大震災対策を担当）。2011.4から作陽学園勤務。主な著書：『個人情報保護対策』『高度情報化と地方自治』『現代のトイレ事情』『トイレが大変！』『100年の忘却 ライフクライシス』ほか。

## 発表4. 大原社会問題研究所の心

岡山大学地域総合研究センター 副センター長

岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 三村 聡

明治維新以降、日本の近代化は、西欧から多くのことを学ぶことにより、それを日本的に受け入れ、欧米に比肩できる東洋の先進国としての国づくりをめざした。わが国の近代化において社会科学の分野で根石を築いたのが、1919年2月9日、大原孫三郎氏により設立された大原社会問題研究所（以下、大原社研という）である。大原社研は、西洋における社会問題研究を起点として、言語、社会思想、哲学、労働運動にいたる幅広い先人の諸著作や調査研究、資料や文献を収集することから始め、それを精緻に読み解き、整理・編集・分析作業を通じて、理解・啓発活動を続けてきた。

わたくしの恩師、原薫法政大学名誉教授は、大原社研の出身で、さらにその恩師が、戦後、長く研究所長を勤められた久留間鮫造先生である。久留間先生は、岡山市のお生まれで、岡山県立岡山中学校、第六高等学校、東京帝国大学卒業後、大原社研の設立より研究員となり、戦前・戦中の困難を極めた時代を乗り越え、戦後の復興期を経て、その発展に尽力された。わたくしは孫弟子にあたる。久留間先生から教室で講義を拝聴することは叶わなかったが、大原社研の理想や活動の歴史について御聞かせ頂く機会を得た。また「次代を担う君にエールを送ろう」と、晩年、著書にサインを頂いた。それが契機となり研究者の道を志した。

大原社研から学んだ精神は、西洋における社会現象やそこで生起した課題を、単なる表層的な理解にとどめず、深く学問という観点から受容するプロセスを通じて、その解決策を見出そうとする意志である。すなわち、孫三郎氏の功績は、欧米の社会問題の研究や文献収集に終始せず、日本の歴史や社会慣習を踏まえて問題の解決策を探る活動を並行して進め、日欧の相違点と共通点を明らかにすることにより、相互理解を深め、異文化・異社会と共生しようとしたことにある。さらに、孫三郎氏の偉業は、激動期にあって、企業経営者の視座から国家的な課題である「近代化」に向けた道筋を自ら探ろうと、自然科学や医療福祉、芸術や宗教など複眼的な社会実装活動を通して、総合的に近代日本に求められる真理と社会正義を探究したことにある。

現代社会は複雑・混迷化の様相を呈し、解決策を見出すことが困難な時代を迎えている。孫三郎氏と大原社研の志を、縁を得た岡山の地で、微力ながら、学生たちや地域社会の皆様方に伝えようと歩む姿を、岡山大学が進める地域実践活動を通してご報告申し上げたい。

### 略歴

法政大学経済学部、法政大学大学院社会科学研究所修士号取得、九州大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、京都大学大学院経済学研究科博士号取得（経済学）。全国労働金庫協会・連合会、金融財政事情研究会、現代文化研究所（トヨタ自動車研究所）、愛知学泉大学を経て岡山大学、2011年11月から現職。専門は協同組織金融とコミュニティ政策。単著『労働金庫 勤労者自主福祉金融の歴史・理念・未来』（金融財政事情研究会2014年）、共著『現代公共政策のフロンティア』（岡山大学出版会2015年）等。人を大切にする経営学会理事、日本計画行政学会中国支部理事、岡山市総務・市民審議会委員、内閣府地方創生人材支援制度（岡山県井原市地方創生戦略顧問）等。

## 発表5. 大原孫三郎・總一郎と民藝運動—武内潔眞日記を中心に—その2

ユー・アール設計 辻野 純徳

第3回研究会では武内潔眞日記(以下、TDと略)を中心に、児島虎次郎をリーダーとする「倉敷名産(藝術味アル)」(大正13年8月10日、TD)から「民藝美術館ノ為 十万円」(昭和10年5月12日、TD)までの経過について、その時の記述やその時の「もの」(または類似品)を選び出し、照合しながら、時系列に従って発表した。ただ、「大原總一郎と民藝運動」や「民藝同人たちと倉敷」については、時間の都合で割愛した。今回は、これら前回発表で割愛した部分に加え、昭和15年倉敷に民藝館支部を設立する企てまでについて、報告する。

總一郎が民藝同人や倉敷の街並みに関心を深めたのは、昭和11年4月から2年間超の外遊中に、柳宗悦の紹介によりロンドンで会ったビクトリヤ&アルバート・ミュージアムのヘンリー・バーゲンとの交わりからと思われる。バーゲンによる世界の陶工の順位付け(第一に濱田庄司、第三に富本憲吉、第四にバーナード・リーチ)や、バーゲンの買い求めた棟方志功の版画を知り、バーゲンと共に晩秋のコッツウォルズ訪問等した後、總一郎は武内に柳の著書を、孫三郎に「倉敷ヲ説明スル資料トシテノ風景写真」や陶器を、外遊先まで送り届けるよう依頼している(TD)。これに対して武内は『工藝ノ道』『茶道ヲ憶フ』や、孫三郎の監修で倉敷の写真24枚と陶器等を選んで送っており(昭和11年12月、TD)、当時總一郎はまだ『工藝ノ道』を読んでいなかったようだ。帰国後の歓迎会では、出席した棟方と肝胆相照らす。そして次第に孫三郎に代わって民藝同人たちとの交わりを深める。昭和15年8月、倉敷絹織(株)寄宿舍改造案を同人らに依頼し、来倉調査と立案をさせる(TD)。その頃孫三郎は民藝館支部のため大原美術館横の土蔵の明け渡しを武内に命じ、倉敷絹織の技師に土蔵の図面を作成させている(TD)。この年の『月刊民藝』10月号は「大原總一郎氏の主唱により倉敷民藝館が計画されつつある」と記す。總一郎は、昭和8年の濱田展は隔離病舎入院中のため、10年のリーチ展は大阪転勤のため(TD)、日時をつき合わせると会えていない。昭和10年11月に大阪での濱田展に父子で来場して濱田と、また同月に夫妻で柳邸を訪問して柳と会ったことが、TDや柳の書簡から伺え、リーチとの出会いは渡欧時と、TDや柳の書簡や總一郎の著書から推測される。

倉敷の民藝運動は、酒津窯での製作や三橋玉見・武内らと競って雑器の蒐集(TD)を通じて、柳の「雑器の美」に端緒を開いた近藤悠三、『工藝』の発刊や同人の情報を伝えた船木道忠の果たした役割が大きい。またそれ以上に、渋っていた(柳書簡)柳を山陰行きの途中で倉敷に下車させて民藝について語らせ、新作民藝の実物を武内や三橋に送り届ける(TD)等、濱田の果たした働きは大きい。早くから関係がありながら、遅くに交流を深めた河井寛次郎、民藝同人とされながら、柳を通じてではなく京都の陶工中川泰藏を介して関係を深めたと推測される富本、大正14年から昭和2年までの倉紡中央病院在籍中に大原父子から知遇を得たと伝えられる吉田璋也らについても、触れる予定である。

(略歴)

大阪大学工学部卒業／(株)藤木工務店・倉敷レイヨン(株)・(株)倉敷建築研究所(現 浦辺設計)・(有)ユー・アール設計代表取締役を経て相談役／'70～'75, '84～'89 大阪大学講師／'59～倉敷中央病院設計担当／(公財)大阪日本民藝館評議員, 日本民藝協会(元)常任理事, 大阪民藝協会(元)会長

## 4. 研究発表（学術研究の部）

司 会：倉敷芸術科学大学 教授 時 任 英 人 氏

発 表：

1. 後藤 正志 氏（其楽堂）  
「児島虎次郎と其楽堂」
2. 橋本 美由紀 氏（法政大学大原社会問題研究所 兼任研究員）  
「岡山県の家族介護者の介護時間と生活時間  
—大原孫三郎の病院創設への思いと現在の地域医療プロジェクトをふまえて—」
3. 菊池 義昭 氏（東日本国際大学）  
「大正期の岡山孤児院での  
大原孫三郎理事の2年目の経営とその実践内容」

### 時任 英人（ときとう ひでと）氏ご略歴

上智大学大学院博士課程修了。博士（国際関係論）。上智大学助手を経て、1995年4月より倉敷芸術科学大学助教授、1999年4月より現職。大学院時代は「犬養毅研究」で前国連難民高等弁務官緒方貞子氏の指導を受ける。

#### 主な著書

- 『犬養毅—リベラリズムとナショナリズムの相剋』（論創社）
- 『明治期の犬養毅』（芙蓉書房）
- 『犬養毅—その魅力と実像』（山陽新聞社）
- 『犬養木堂とアジアの人々』（犬養康彦氏、緒方貞子氏との共著） など

#### 最近の論文

- ・犬養毅における「平和」外交と軍縮について（2014年）
- ・岡山県下の革新倶楽部と政友会の合同前後における犬養毅と支持者たち（2014年）
- ・犬養道子との関係に見る晩年の犬養木堂—道子の証言を中心として—（Ⅰ）（Ⅱ）（2015年）

## 発表1. 児島虎次郎と其樂堂

其樂堂 後藤 正志

本発表は、大原孫三郎の指示を受けて開始される倉敷における工芸運動の一側面である、児島虎次郎と其樂堂後藤喜美栄の二人による倉敷特産物としての木工品の製作について検討していくものであると共に、その後に発展する倉敷における民芸運動の一方の主演として、後藤喜美栄が存在していたことを明らかにすることを目的としている。

後藤喜美栄は、1903（明治36）年に現在の香川県綾歌郡綾川町に生まれ、その後、香川県立工芸学校（高松市）を卒業し、東京での家具製作に従事する。そして、1924（大正13）年に倉敷へ招聘される。これは、児島虎次郎の指導の下で木工品製作をすることを目的とするものであった。

児島虎次郎と後藤喜美栄の共同作業を具体的に示す資料として、虎次郎筆のデザイン集が残されている。この中には、ルーブル美術館所蔵品の模写等、虎次郎が画いた多数のデザインが記されている。そこには、具体的に其樂堂作品として製作されたものも含まれている。

児島虎次郎による指導内容を要約すれば、喜美栄にデザイン力を身につけさせ、それを強靱な材料で作品として仕上げるといったものであった。その作業中には、適宜アドバイスを受けながらも、基本的には、後藤喜美栄自身がデザインを選択し、また、素材を選定し、製品を作り上げていたものと思われる。

このような形で製作された其樂堂作品については、倉敷を代表する知識人である大森一治による的確な批評が知られている。そこに記されている内容は、かなり厳しい評価であるが、一方で、今後の発展に大きな期待を寄せていることも確かである。また、わずかに残る資料から、其樂堂の初期の顧客についても確認していく。

児島虎次郎と其樂堂の活動は、1929（昭和4）年3月の虎次郎の死によって大きな変化を遂げることとなる。その一つが、大原孫三郎の庇護下を離れ、独立経営への道を歩むことである。虎次郎逝去の翌年には、酒津の工房を引き払い、現在の店舗兼工房（倉敷市阿知2丁目）へと引越し、木工品の製作と共に販売にも力を入れることとなる。

また、もう一つの大きな変化としては、柳宗悦を中心とする「民芸」運動への接近・合流を挙げることができる。柳を筆頭とする民芸指導者による直接的な指導の痕跡は見受けられないが、倉敷で開催された民芸品展示即売会等においては、其樂堂作品も一緒に販売されていたことなどが確認できる。

また、喜美栄の発言からは、児島指導下における高級木工品製作よりも、民衆のため、実用品として、更に、廉価販売される民芸品の製作を本心では望んでいたものと思われる。その具体的な活動を残されたわずかな資料を用いて明らかにしていくと共に、倉敷の民芸運動における其樂堂後藤喜美栄の果たした役割についても検討してみたい。

### 【略歴】

昭和47年、甲南大学経済学部経済学科卒業。後藤喜美栄の木工漆製品の弟子として、又、其樂堂の店主として経営に携わっている。

## 発表 2. 岡山県の家族介護者の介護時間と生活時間

—大原孫三郎の病院創設への思いと現在の地域医療プロジェクトをふまえて—

法政大学大原社会問題研究所 兼任研究員 橋本 美由紀

本発表の課題は、大原孫三郎の病院創設の思いと現在の病院が行っている地域医療プロジェクトをふまえつつ、岡山県の家族介護の現状を家族介護者の介護時間と生活時間という観点から考察し、地域統計の充実と岡山県の家族介護について検討することである。

大原孫三郎は、岡山県倉敷の大地主・倉敷紡績の経営者であると同時に、大原美術館や3つの科学研究所、倉敷中央病院の前身である倉紡中央病院の創設など、社会や教育のためにも力を尽くした実業家である。病院創設にあたっては、単に従業員とその家族のためのものではなく、地域住民も受診できるものにと考えた。この地域住民とともに進めていくという姿勢は現在にも通じていると思われる。

発表者が岡山県の家族介護者に関心を持ったきっかけは、2009年の倉敷中央病院医療福祉相談室へのヒアリング調査に始まる。倉敷中央病院は地域の中核病院として急性期医療を担っており、引き続き入院治療が必要な場合は、療養病床、回復期リハビリ病棟等をもつ病院に転院させることとなる。これをスムーズに行う機関として総合相談・地域医療センター、およびその傘下の医療福祉相談室等がある。いずれの場合もその転院に際し、家族の支えや一定期間の家族介護を必要とし、場合によっては家族介護を前提とする在宅介護に切り替わることもある。発表者はその後、医療福祉相談室からお借りした月報や日報からの分析によって、家族介護者の現状について考えるに至った(橋本 2013、2014)。

家族介護者に関しては、従来の子の配偶者(一般的には女性配偶者)は減少し、依然として妻や娘等の女性介護者の割合は高いものの、男性介護者(夫や息子)が近年増加している(国民生活基礎調査 2013)。家族介護者の介護時間とその他の生活時間の関連を検討した研究として日本では、経済企画庁(1999)、小林(2002)が挙げられる。さらに最近では、「平成23年社会生活基本調査」を用いて、中高年期男女の家族介護の現状とワーク・ライフ・バランスの課題を、生活時間を通して考察した伊藤(2013)の研究がある。

以上をふまえ本発表では、第1に病院創設への大原孫三郎の思いと、それが現在の病院運営とどのようにかかわっているのかに触れ、第2に「社会生活基本調査」を用いて岡山県の介護時間とその他の生活時間との関係、全国平均の介護時間およびその他の生活時間との比較等を行い、家族介護のあり方と、介護の考察をする上で地域の生活時間調査に足りない統計表を検討していく。

略歴：2009年、法政大学大学院経済学研究科博士後期課程修了。博士(経済学)(法政大学)。

研究分野：経済学，社会学，ジェンダー(統計・社会調査，ジェンダーと労働，介護福祉)

著書：単著『無償労働評価の方法および政策とのつながり』(産業統計研究社、2010年)、共著『市場とジェンダー—理論・実証・文化—』(法政大学出版局、2005年)、共著(訳書)『仕事と家族と幸福感—北欧・東欧5大都市の比較調査—』(大月書店、2001年)。

### 発表3. 大正期の岡山孤児院での

#### 大原孫三郎理事の2年目の経営とその実践内容

東日本国際大学 菊池 義昭

本報告では、大原孫三郎理事が、石井十次院長の遺志を受け継ぎ、茶臼原孤児院関係者と協議してまとめた「改革案」や「茶臼原経営方針」が、2年目にどこまで具体化したかを解明し、その実践内容の到達状況をまとめていくことにする。つまり、理事就任1年目の1914年は、石井院長の事業を現実的に発展させることを前提に、大原理事の経営方針とその思想を、主要な職員などと協議しながら9月9日に「改革案」を作成して、11月19日と20日には茶臼原孤児院を訪問し、「茶臼原経営方針」を殖民、農業見習生、院児、職員、主婦（現在の保育士に近い）という順序で懇談、協議し、同理事の訓話や指示というかたちで説明した。そして、先の「改革案」や「茶臼原経営方針」の内容が、2年目にどこまで具体化したかをまとめ次のようになる。

- ① 小学校教育では、農場学校生が家庭舎の農業を支援することになり、院児たちは午前中に授業を受け、午後からは家庭舎での農作業という方式が定着し、安定した授業時間の確保が可能になった。また、新任教師も1人増加し、補習科2年生が昨年より12人増加し、教育年限の延長も確認できた。
- ② 新設された農場学校では、2月に農業見習生15人が予科生として入学し、4月から開校し13人が正式に学び始めた。午前中に学科教育、午後から農場等での農作業などの実習教育を実施し、8月からは建築実習も始まり、教室、事務所、農産製造舎、雨天作業所、食堂、生徒宿舍、厩舎、教師住宅など13棟を上棟した。また、10月下旬には5棟の宿舍に生徒が移転し、宿舍での3人1組の共同生活と共同炊事が始まった。
- ③ 10家庭舎では、今年より良い農地が優先的に配分され、平均水田6反歩、畑1町5反歩、桑園5反歩を耕作することになった。この農地は農場学校の生徒が担当を決めて支援したため、院児と主婦の負担が減少した。また、各家庭舎には、院児の年齢等を勘案し、毎月一定の補給金が支給された。
- ④ 殖民は、今年の農地の再配分により、水田は3反歩弱に減少し劣悪な農地が配分されたため、生活困難に陥ったが、2家族が大原奨農会の農夫として倉敷町に移転し、他の2家族も病気と失明により農業をやめたため、19戸に減少する一方、水田の減少は回避された。
- ⑤ 「基督教的農村」の具体化では、毎週礼拝と日曜学校が開催され、主婦等による聖書研究会も実施されるなど、その基盤がつくられていった。

〈参考文献〉財団法人岡山孤児院『大正四年度年報』他。

略歴 東洋大学ライフデザイン学部を経て、本年4月から東日本国際大学に所属。石井十次資料館研究員。『石井十次資料館研究紀要』編集者。





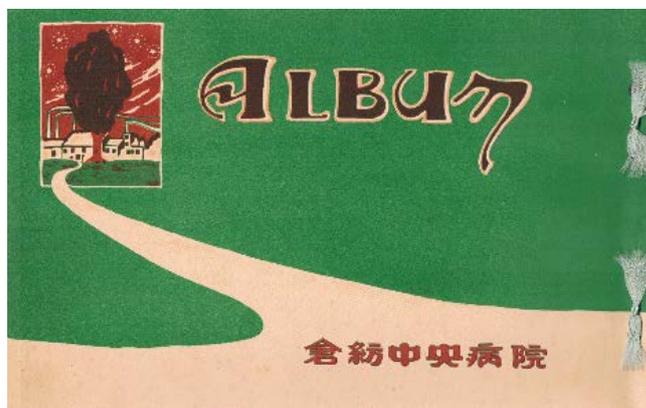
## 有隣会所蔵資料のご紹介



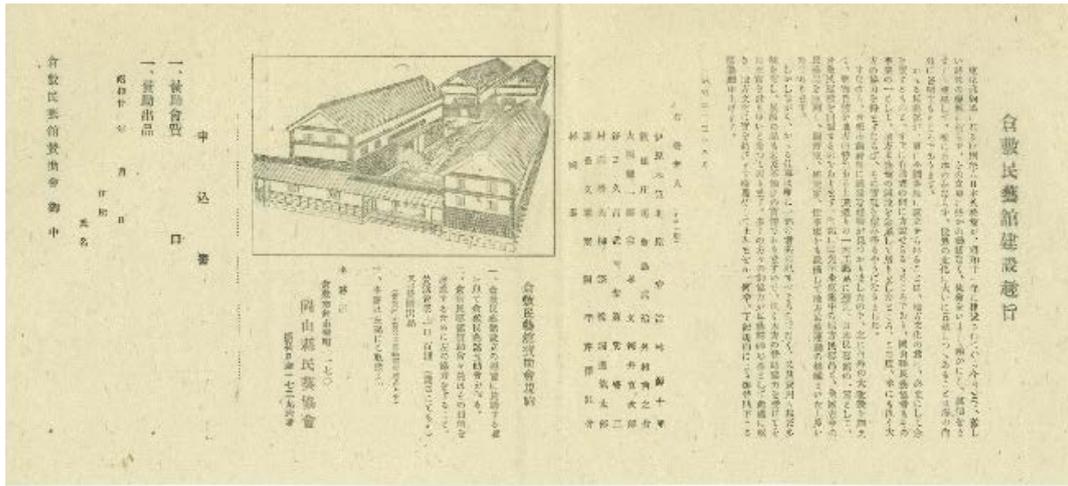
①大原總一郎書額  
(免出征氏寄贈資料)  
198.2センチ×47.0センチ  
(本紙：136.2センチ×32.1センチ)



②暉峻義等讚富本憲吉画掛軸  
(購入資料)  
200.2センチ×44.9センチ  
(本紙：140.2センチ×34.7センチ)



③倉紡中央病院開院記念アルバム  
(免出征氏寄贈資料)  
18.2センチ×28.8センチ (1冊：12枚)

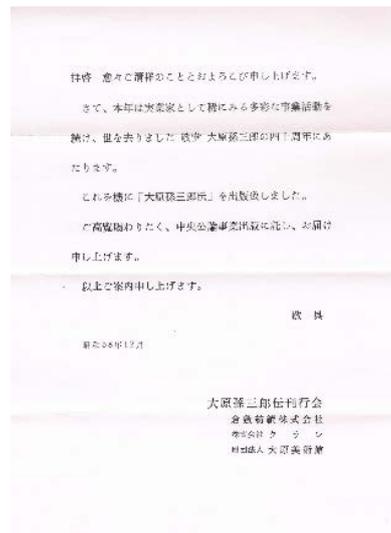


④倉敷民藝館建設趣旨  
(原道彦氏寄贈資料)

19.3 センチ×43.1 センチ



⑤倉敷時報 310 号  
(原道彦氏寄贈資料)  
25.7 センチ×18.3 センチ (1冊 : 16頁)



⑥大原孫三郎伝出版案内  
(安井昭夫氏寄贈資料)  
25.9 センチ×18.2 センチ

資料・情報など提供者募集

当会では、大原家に関する情報や資料を探しております。  
大原に関する書簡や写真、大原関連の企業などの資料、また、言い伝えや思い出話などございましたら、ぜひ有隣会までご連絡下さい。  
皆様方のご協力、よろしくお願いいたします。

## 沿革

明治35年、大原孫三郎は信濃毎日新聞に掲載された山路愛山の所論に啓発され『高等なる学術の通俗的普及』を目的として広く公衆の知徳を啓発し社会の公益を増進する」ため「倉敷日曜講演」を創設しました。

この講演会は大正14年まで続き、回を重ねること76回に及びました。昭和18年、孫三郎が逝去するとその遺志は總一郎に引き継がれ敬堂会講演会となり、さらに昭和43年、總一郎逝去後は敬堂会を改組した有隣会の主要行事となりました。

明治、大正、昭和と時代を経て平成の世に入り社会は大きく変わり、人々の価値観も多様化しました。さらに、グローバル化とともに人口問題や地球環境問題など新たな問題が提起されております。

このようなときにあたり、倉敷発展の礎を築いた先人、とりわけ大原孫三郎が目指した社会、總一郎が追及した生き方、企業の在り方を探りそして学び、現代に活かす努力をすることは私たちの使命と考えます。

有隣会は平成22年4月、孫三郎・總一郎の事績を顕彰し、その志を広く世に伝えることを目的に一般財団法人を設立、平成27年4月には公益財団法人に移行し、社会貢献を果たしながらより良い未来を築くための事業を展開しております。皆様方のご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 再編趣意書

二十一世紀も十年が経過した今、世界では国際社会が直面する諸課題が人類の前に大きく立ちほだかり、日本社会でも私たちが抱える諸問題が相次いで顕在化しています。

私たちは、今、新しい模索の時代の入り口に立っているのです。

そのような時、倉敷の大原家が代々継承してきた事業の中に生きている精神は、貴重な指針を与えるゆるぎない精神遺産であると、私たちは考えます。その精神遺産は、大原孫三郎、總一郎父子の思想と行動の中で、現代的意義付けを獲得し、今に生きています。

有隣会は、大原孫三郎、總一郎父子の事績を顕彰し、その志を広く世に伝えることを目的とする会です。ここに集うのは、その「大原精神の理念」で結ばれた精神的隣人たちです。

私たちは、この有隣会をして、より広く「大原精神の理念」の真髓を極め、これを後世に伝えるための活力ある組織として再発足させたいと考えます。

その趣意に沿い、ここに、有隣会は、新しい規約を定め、有志を募り、再発足します。

平成22年3月26日

設立者 大原 謙一郎

公益財団法人 有隣会

〒710 - 0055 倉敷市阿知2丁目25番33号

TEL (086) 434 - 6277 FAX (086) 434 - 6244

Email [ohara-society@yurinkai-kr.or.jp](mailto:ohara-society@yurinkai-kr.or.jp)

URL <http://yurinkai-kr.or.jp>